

# 夏ねぎの導入による ねぎの周年栽培

深谷市は、秋冬ねぎを中心とする一大産地です。しかしながら、他の産地と同様に高齢化や後継者不足により作付面積が減少し、ねぎを生産する経営体の収益の伸び悩みが課題となっています。

そこで、経営の安定化を目指し、現在の主作型である秋冬どり栽培に新たに産地の出荷量が少ない夏季に出荷する「夏ねぎ」を導入し、ねぎの周年出荷による規模拡大を図った事例を紹介します。

## 【ねぎの作付体系例】

作型	出荷時期	播種時期	定植時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏ねぎ	6月～10月	10月下旬～12月	12月下旬～2月				∩							○	△
秋冬ねぎ	11月～3月	1月～4月	3月～6月	○		△		○		△					
春ねぎ	3月～5月	5月下旬～6月上旬	7月～8月						○	○	△	△			

○:は種    △:定植    ∩ ∪:トンネル    ■:収穫期間

## 【ねぎ周年栽培における品質安定を目指した取組】

### 1. 夏ねぎ栽培のポイント

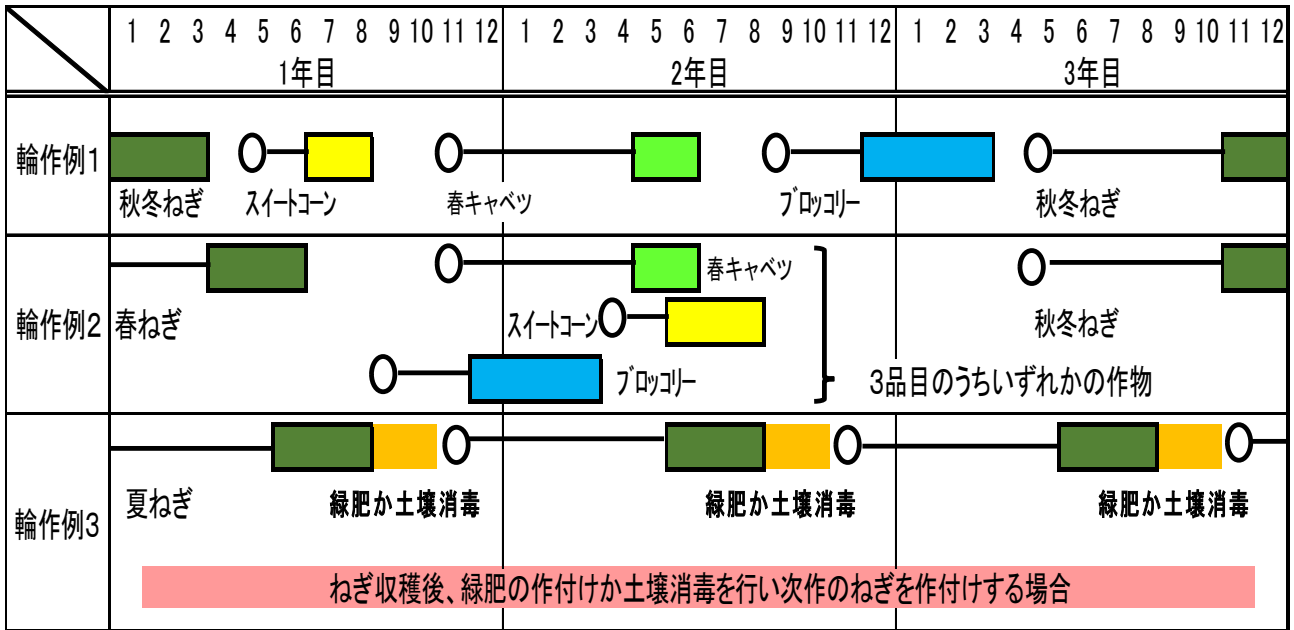
- ① 抽台の発生を抑えるため、晩抽性品種を選定します。
- ② 低温による花芽分化を抑えるため、トンネル被覆をします。
- ③ 育苗時にトレイで防除を行い、初期の病害虫発生を抑えます。

経営体名 有限会社 馬場ファミリー農園  
(代表: 馬場一彦)  
 設立年月 平成 17 年 5 月  
 労働力 家族労力 5 人、正社員 2 人、  
 臨時雇用 2 人  
 経営面積 11ha  
 主な品目 ねぎ 4ha、ブロッコリー 2 ha、  
 カリフラワー 1 ha、キャベツ  
 1.2ha、水稲 2 ha 他

### 2. 連作障害を避ける取組み

- ① 牛ふん堆肥や緑肥の作付けによる土づくりをします。また、夏季には太陽熱による土壌消毒を行います。
- ② ねぎを収穫した後に、緑肥作物を作付け、生育中にトラクターですき込み土づくりをするとともに、ほ場の風食防止に努めています。
- ③ ブロッコリーやキャベツ、丸系八つ頭等の他作物との輪作体系を徹底します。

輪作体系の事例



○ : 定植    [ ] : 収穫時期    ※いずれの作型においても、状況に応じて次作の作付前に緑肥作物の作付や、土壌消毒を行う場合がある